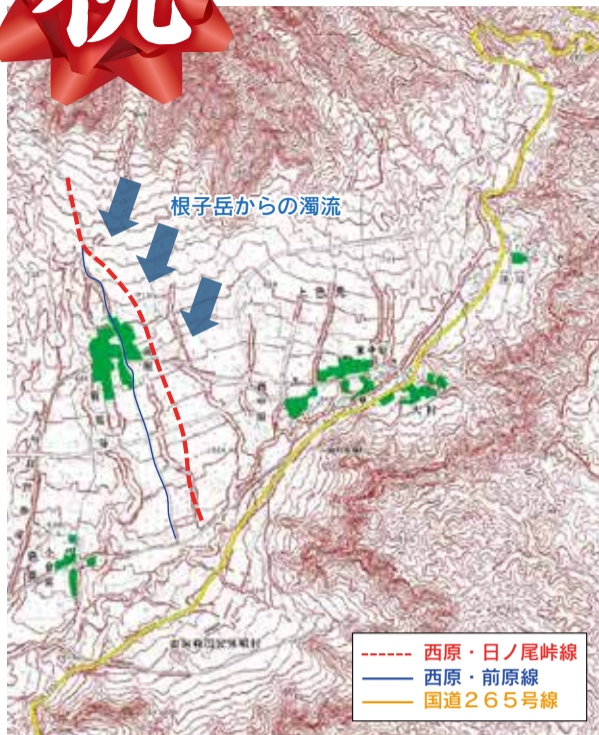




町道西原・日ノ尾峠線開通

平成24年7月12日
九州北部豪雨対策事業



平成24年7月に発生した九州北部豪雨では、上色見地区における最大1時間雨量92mm、総雨量565mmに達する記録的豪雨により、大量の雨水や土砂が集落を襲いました。
西原・日ノ尾峠線の先を見据えた創造的な復旧整備により、全長2,334mの緊急避難道路が完成しました。自然災害時には集落への濁流の侵入を防ぐなど、緊急的な防災機能を果たします。



スタート地点



高さ1.5m×幅3mの側溝
(場所によって違いがあります)



以前より更によくなった中原橋

開通式当日は、晴天に恵まれ、道路の沿道には数多くの地元の皆さまが立たれ、通り初めの車両を歓迎されていた様子が印象的でした。今回の町道西原・日ノ尾峠線の開通を心より待ち望んでいた地元の皆さまの思いが伝わりました。



式典には多くの来賓が出席され、代表で3名の方が祝辞を述べました。
熊本県 田嶋副知事(左) 自由民主党熊本県支部連合会前川会長(中央)
参議院 馬場議員(右)



式典の様子(式辞を述べる草村町長)

住民の方のお声を一部紹介します



荒牧 陽子 さん

カーブミラーの高さまでの水が家にきて凄かった。この道路の有難みは被害にあった者でないとわかりません。



後藤 要治 さん

家の前の道路が川となって木材や大きな石、自動販売機まで流れてきた。今は安心して過ごせることに感謝。



榎木野 繁英 さん

屋敷が全部水に浸かって流され、大変な思いをした。道路ができて、私の地区は水害から免れるようになった。

蒸気機関車SL 町民の思いを乗せて

磨きつづけて27年

高森町老人クラブ昭和会は、駅前の清掃のほか、SLのサビを磨いたり、油を付けたタオルで拭いたり定期的に美化作業を行ってきました。その長年の活動をねぎらい、町から感謝状が贈られました。

移設前に見納めに訪れたメンバーは、車両を眺めながら思い出話に花を咲かせていました。



高森町老人クラブ昭和会のメンバー

11月7日、高森駅前に展示・保存されていた蒸気機関車(SL)「C12形241号機」の移設作業が行われました。

241号機は1940年に製造され、旧国鉄時代に高森線を走り、1974年に引退。その後、高森駅前に展示され、地元の方をはじめ、多くの鉄道ファンに親しまれてきました。しかし、老朽化が進み、安全性の確保のため、駅前での保存が課題となっていました。

このことを知った直方市のNPO法人『汽車倶楽部』が「何とか救いたい」と提案があり、無償での移設が実現しました。

今後2年をめどに、整備が予定されており、『汽車倶楽部』の江口理事長は、「高森町の人たちが大切にしてきたSL。その思いをしっかり受け止め、次世代に継承していきたい。きれいになったら、高森の人にもぜひ見に来ていただきたい。」と述べました。



無事、移設が完了しました。(写真は移設先の様子)